



フェノロジーカレンダー

桜島・錦江湾奥

自然と暮らしの

恵みこよみ



桜島ビジターセンターへのアクセス

- 1 鹿児島空港
高速バス(約40分)
- 2 鹿児島中央駅
路面電車(約15分)
- 3 水族館口
徒歩(約7分)
- 4 鹿児島港
桜島フェリー(約15分)
- 5 桜島港
徒歩(約10分)
- 6 桜島ビジターセンター

- 桜島ビジターセンターからの所要時間(車)
- 有村溶岩展望所 約16分
- 黒神埋没鳥居 約26分
- 高峠 約45分
- 鹿児島中央駅からの所要時間(車)
- 仙巖園 約15分
- 重富海岸 約31分
- 若尊鼻 約55分

凡例

- 国立公園区域
- 九州自動車道
- 国道・県道
- 航路
- JR
- VC ビジターセンター



桜島の火山情報
現在、桜島は日常的に噴火をしています。昭和火口及び南岳山頂から概ねの2km範囲では立ち入り禁止区域となっています。

霧島錦江湾国立公園 概要

日本最初の国立公園のひとつ。霧島山塊、桜島火山、錦江湾など、巨大カルデラ群が生み出す多様な火山景観と海域景観が特徴。また、そこに育まれた豊かな文化や温泉・食などの恵み、壮大な歴史と神話を楽しむことができる公園です。

- 面積：陸域36,605ha ●指定：1934年3月
- 関係市町村(2県、8市3町)
- 宮崎県：都城市、小林市、えびの市、高原町
- 鹿児島県：鹿児島市、垂水市、霧島市、始良市、湧水町、指宿市、南大隅町

日本各地からのアクセス

各空港からの所要時間	鹿児島空港	鹿児島
東京	約120分	鹿児島
大阪	約75分	鹿児島
福岡	約50分	鹿児島
東京	約110分	宮崎
大阪	約70分	宮崎
福岡	約45分	宮崎

霧島錦江湾国立公園 桜島・錦江湾奥エリアインフォメーションセンター

桜島ビジターセンター
〒891-1419 鹿児島県鹿児島市桜島横山町1722-29
TEL:099-293-2443 営業時間:9:00~17:00 年中無休・入館無料
<http://www.sakurajima.gr.jp/svc/>

重富海岸自然ふれあい館なぎさミュージアム
〒899-5652 鹿児島県始良市平松7675
TEL:0995-73-3146 営業時間:9:00~17:00(夏期は~18:00)
火曜・年末年始は休館(夏休み期間中は無休) 入館無料
<https://www.nagisa-museum.com/>

霧島錦江湾国立公園の詳細な情報は
霧島錦江湾国立公園

桜島とその周辺に暮らす人々



桜島島民(約5,000人)の他、約60万人が暮らす鹿児島市の市街地も桜島の対岸に位置しています。この地域で暮らしてきた長い歴史が物語るように、桜島は周辺に暮らす人々に多くの恩恵をもたらしてくれま



灰との暮らし

桜島周辺の住民にとって灰は生活の一部です。路面清掃車で道路上の灰は撤去され、各世帯では灰はク灰袋に詰められて鹿児島市が回収します。そして地域の天気予報では火山灰を運ぶ桜島上空の風向きも分かるため、洗濯物を室内干しするなどの対応をします。



体験

桜島ならではの体験として、火山灰を活用した陶芸ガラスや、溶岩窯でのピザ焼き、夜間の噴火クルーズなどが体験できます。さらにサイクリング、カヤック、温泉、ガイドツアーなど、桜島には誰でも楽しめるアドベンチャーが多数あります。

桜島の恵みと暮らしとの関わり

桜島と錦江湾では火山地域ならではの地形と気候を活用した様々な特産品があります。



桜島小みかん

桜島小みかんは直径5cm足らず、重さ50g程度の小さいみかんです。桜島でも作る場所によって日照時間や地層が異なるため地面に日射を反射するシートをつけたりその場所にあった台木を選んだり様々な工夫をして安定した品質維持に努めており、また桜島の降灰から果実を守るために屋根かけハウスで、水まきの量を工夫しながら栽培しています。



桜島びわ

びわは桜島でも盛んに栽培されており、袋掛け作業や整枝、剪定、土壌管理、防除、剪定後の管理など多くの手間暇を掛けて1粒1粒の果実が育てられています。びわの収穫時期を見極めるサインは穂穂が首を垂れるようにびわ袋が下がってきたら「美味しくなったよ」のサインなので、びわ農家は園地を見回りながら袋の重さや中の状態を確認して収穫するタイミングを図っています。



桜島大根

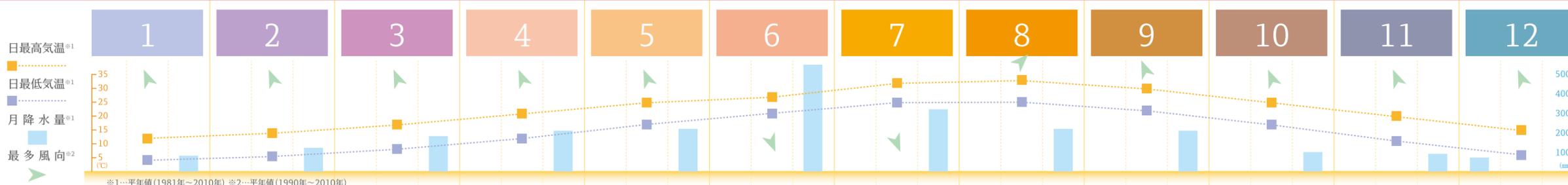
桜島大根は生産農家ごとに栽培方法が異なりますが、台風や桜島の降灰により、種の蒔き直し作業やプロアーによる灰の吹き飛ばしなど手間のかかる作業が多く、5ヶ月間掛けて育てています。畑の土は、軽石まじりの荒れ地のような状態であり、適度にやせていて水はけの良い土壌は、養分と水分をコントロールしやすく、大根を育てる上で良い環境です。



ブリ・カンパチの養殖

錦江湾では主にブリ・カンパチの養殖が盛んです。ブリは全国生産の2割を占め、カンパチは全国生産の90%のシェアとなっています。その理由は錦江湾の恵まれた環境条件にあります。年間を通して暖かく酸素を多く含んだ綺麗な海水に恵まれ、深海湾であることから、沿岸近くでもイケスはとても深いところに設置され漁場環境が良好に保たれています。また、養殖業に関わる方々が若くて活気があります。元気な漁業後継者たちの若い力も、錦江湾を力強い生産の場としている大きな理由です。

ブリの群れ



大地の恵み

桜島大根の収穫
桜島大根
200年以上の栽培の歴史をもつ桜島地域の特産物です。世界一の重さ31.1キログラム(胴回り119センチ)をもつ大根としてギネスブックにも認定されています。

びわの収穫
桜島のびわ
果実は肉厚で、甘い桜島のびわ。ひとつひとつに袋をかぶせたり、ビニールハウスの中で繊細なびわを大切に育てています。

葉ねぎ
緑の葉の部分を食べられる葉ねぎは、β-カロテン、ビタミンB1など栄養豊富!生のまま薬味にしても、鍋物、煮物、炒め物、和え物にしても美味しい。

桜島の椿油
桜島の麓で育ったヤブツバキの種から搾られた高品質な椿油。酸化しにくく、ほかのオイルと比べて長持ちします。

桜島小みかんの収穫
桜島を代表する特産品。鹿児島の初冬の訪れを告げる旬のみかんです。特徴は「世界一小さい」とも言われる果実と、濃厚な甘さ。小みかんを使ったソフトクリームも人気。

海の恵み

ブリの養殖
成長するに従ってその呼び名が変わることから「出世魚」と呼ばれる縁起のいい魚。天然、養殖を使い分けて1年中おいしく食べられます。養殖生産量は全国第1位で「鹿児島ブリ」として高い評価を受けています。

マダイ
昭和55年から始まった100万尾の放流事業のおかげで、錦江湾はマダイの宝庫。姿が良く、全国的にも高い評価を得ています。

カンパチの養殖
台風の時でも入荷のとぎれない扱い量一番の魚。平成2年頃から県内で広く養殖されるようになった高級魚です。

姫甘海老
(通年・6月禁漁)
錦江湾でしか漁獲されない甘海老。伝統的なとんどこ漁も魅力的。

錦江湾の生きもの

錦江湾のイルカたち
錦江湾で見られるイルカは、ミナミハンドウイルカとハセイルカの2種類です。岸近くを泳ぐミナミハンドウイルカは国道からでも高確率で遭遇できます。ハセイルカは岸から離れたところを大群で泳いでいます。

ハクセンシオマネキ
スナガニ科に分類されるカニ。オスの片方のハサミが極端に大きいシオマネキの一種。白っぽい体色が特徴です。このカニが干潟を耕してくれることで、他の生きものも生きていくことができます。

クロツラヘラサギ
真っ黒い『しゃもじ』のようなくちばしをした鳥です。錦江湾奥の湿地には朝鮮半島などから冬鳥として訪れます。豊富な食糧に恵まれた錦江湾は、大切な越冬地になっているので年々数が増えています。

錦江湾で発見された、変わった生態の深海生物「サツマハオリムシ」
錦江湾に若尊火口という湾底火山の噴火跡があります。そのカルデラの水深80mぐらゐのところに『たぎり』という猛毒な火山ガスがわき出ている場所があります。サツマハオリムシは、ゴカイの仲間ですが、化学合成細菌を体の中に持つことにより、たぎりの硫化水素をエネルギーに変えて、生きていくことができる非常に珍しい生きものです。

年中行事

桜島と錦江湾奥エリアでは、地域の特徴を活かした様々なイベントが季節ごとに催されます。

- 桜島大根コンテスト(1月下旬～2月上旬)
- 鹿児島マラソン(3月上旬)
- 仙巖園 曲水の宴(4月上旬)
- 桜島・錦江湾横断遠泳大会(7～8月)
- 桜島火の島祭り(7月下旬)
- 桜島納涼観光船(8月)
- かごしま錦江湾サマーナイト大花火大会(8月下旬)
- 錦江湾潮風フェスタ(9月上旬)
- 仙巖園 菊まつり(11月上旬～下旬)
- ランニング桜島大会(12月上旬)

錦江湾の特徴

錦江湾の面積は約1,130km²、東京湾とほぼ同じ大きさです。南北約80km、東西約20kmの細長く入り組んだ内湾で、現在でも桜島の噴火活動や海底のたぎりなどの火山活動が続いています。この海域には独自の熱水噴出孔生物群集や湧水生物群集が見られ、豊かな生物多様性が観察できる錦江湾は、まさに天然の水族館と言えます。

海底地形

錦江湾は何万年も前から続く複数の火山活動の結果、すり鉢を2つ繋いだような海底地形をしています。桜島以北の「湾奥部」と南部の「湾中部」、湾入口の「湾口部」に分けられます。

深海

錦江湾は、日本で唯一湾奥部に深海をもち、最大水深は湾奥部で206m、湾中部で237mあります。湾全体の平均水深は117mです。



桜島火山地質図



地形・地質

1,117mの桜島は、始良カルデラ形成後に誕生した火山で、北岳・南岳という2つの火山により形成されています。北岳の活動は停止していますが、南岳は1955年から活発に噴火を繰り返しています。桜島の誕生以来17回の大噴火がありましたが、小噴火はほぼ毎日起きています。「桜島」の「島」にあるとおり以前は離島でしたが、1914年の大正噴火がもたらした溶岩流により現在は大隅半島と陸続きになっています。

火山活動と植生

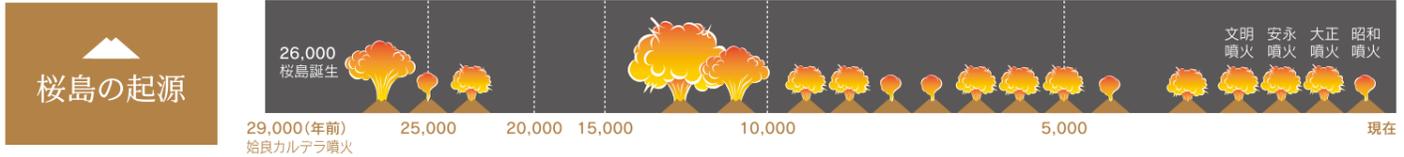
火山には多様な植物が生育しており、桜島の火口付近には火山ガスに強いススキやイタドリ、少し離れると落葉性常緑樹のヒサカキやヤシャブシ、さらに離れるとクロマツやタブノキが生育しています。桜島では色々な時代に溶岩が流れており、その時代ごとに植生回復の進行を間近で観察することができます。有村海岸では、安永(1779年)、大正(1914年)、昭和(1946年)の3つの時代の溶岩を見られます。昭和溶岩流ではむき出しの岩肌でクロマツが生育していますが、安永溶岩流では樹木が生い茂っています。



桜島全景
錦江湾では、冬の寒い早朝に、けあらし(温度より海水の温度が高い場合、海面から蒸発した水蒸気が大気によって急激に冷やされることによって起こる蒸気霧)という現象が発生することがあり、美しい幻想的な風景を望むことができます。

錦江湾のけあらし(気嵐)

錦江湾の朝日



約29,000年前、鹿児島県本土を60mの厚さの火山灰で埋め尽くすほどの超巨大噴火がありました。軽石、火山灰、火山ガスなどが混ざった火砕流がなだれこんで平らな地形となり、その後、川にけずられて残った地形が現在のシラス大地です。そしてこの超巨大噴火により生まれたくぼみが、始良カルデラです。その約3,000年後には始良カルデラの南端にある桜島が誕生し、その後噴火ごとに桜島は拡大しました。